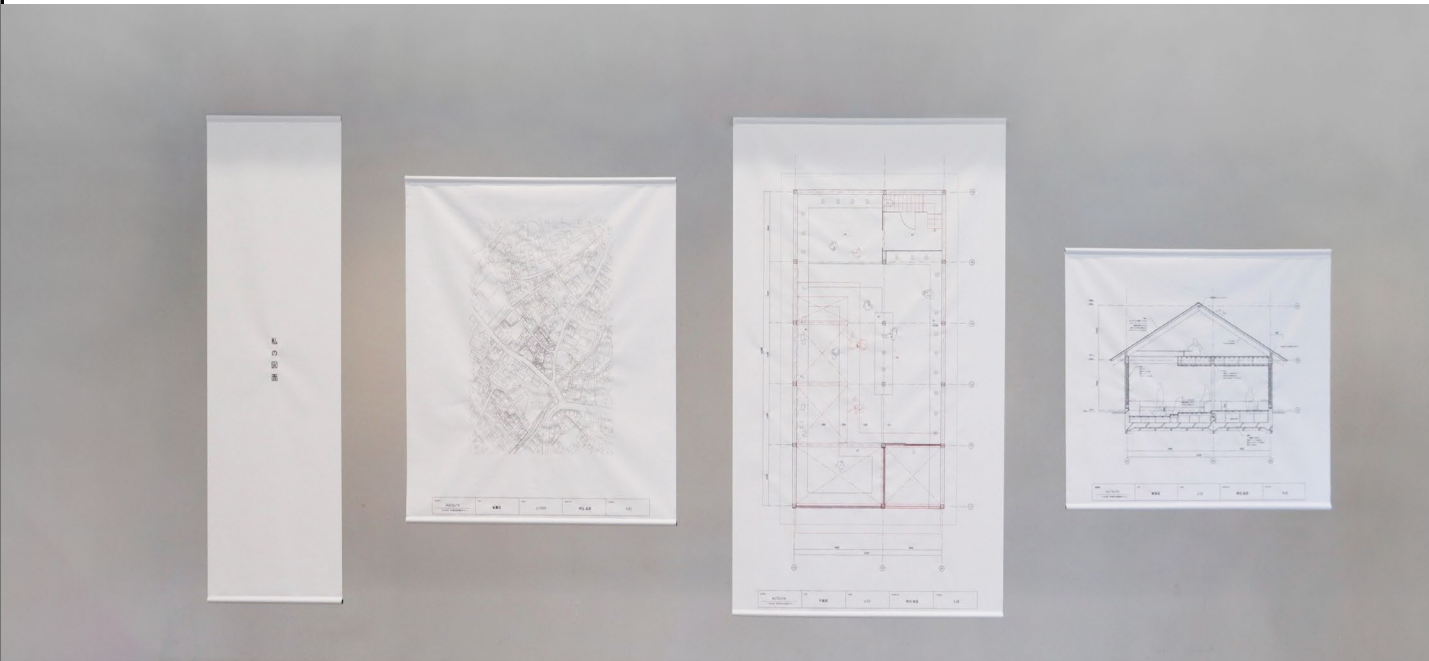


学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2024年	
受賞タイトル	優秀賞	
区分	Ⅱ. 生活ディスプレイデザイン	
フリガナ	トキトウ ユイナ	
制作者名	時任 結菜	
フリガナ	タマビジュツダイガク	
卒業時の大学 学部・学科	多摩美術大学環境デザイン学科	
フリガナ	ユザワ サチコ	職名
推薦者名	湯澤 幸子	教授
フリガナ	ワタシノズメン	
作品名	私の図面	
概要	 <p>これは図面の作品化であり、図面という空間表現に欠かせない媒体の新たな可能性を模索した作品である。 制作は刺繍で行った。線の集積である図面を、さらに細分化しミリ単位での構成が可能である刺繍で糸の暖かさと図面の繊細な緊張感の融合を試みた。</p> <p>これまで図面は一本の線を引くのに個性をなくすものと言われてきたが、そこに個性を加え、縫うという機械的な作業を手でやることで正確さを含みを持たせた。 その含みは表だけでなく裏面にも現れ、見る人は新たな感覚を覚える。 この作品を通して図面は空間を伝えるだけでなく、作者による思考の軌跡であることを再認識させ、図面での新たな空間体験を提供する。</p>	

制作者名	時任 結菜
作品名	私の図面

【コンセプト解説】

これは、図面の作品かである。

私たち建築学生はこれまで、図面や模型、パースなどでデザイン空間を伝えてきたが、どれも1/1で表現することは難しく、制作してきたそれらは代替物に過ぎないと感じてきた。

しかし私は私が制作してきたそれらを、自身の作品であると捉えてきた。

特に模型の制作には心が弾み没頭して制作してきた。

それは自分の手で作る、楽しさの中に没頭することで得る感情が自身の作品であると思わせていたのだと感じる。

そこで今回、図面を新たな視点で捉え、図面を書くのではなく、図面を作ることにした。

制作は、私が得意かつ、好きで没頭できる刺繍を選んだ。

刺繍は、一本の線を一気に引くことはできず、息継ぎを繰り返して線が完成してゆく。

線の集積である図面をさらに細分化し、それらを刻みながら作り上げて行く行為は、この図面を私の作品であると思わせてくれた。

緊張感は残りつつも、糸の暖かさや繊細さが表れる
これが私の図面だ。

